

やまなし自然首都圏構想研究会 二拠点居住推進部会 第3回ワーケーションワーキンググループ議事録

日時：令和3年1月15日（金）13:00～14:30

場所：山梨県庁防災新館 403・404会議室（テレビ会議）

◆出席者：【座長】

丸山 裕貴 東京大学未来ビジョン研究センター 受託研究員

【委員】※50音順（市町村は建制順）

中澤 大 山梨県旅館ホテル生活衛生同業組合 副理事長 青柳 文人
代理 理事

佐藤 優 （公社）やまなし観光推進機構 観光産業支援部長

田中 敦 山梨大学生命環境学部 地域社会システム学科 学科長
観光政策科学特別コース 教授

小林 晋 北杜市役所 観光課長

土屋 正和 笛吹市役所 観光商工課 主査 山形 信寛
代理 （一社）笛吹市観光物産連盟 事務局長

望月 昌也 身延町役場 観光課 副主幹

朝比奈 伸次 富士河口湖町役場 観光課 係長

【庁内メンバー】

リニア交通局 地域創生・人口対策課長、森林環境部 森林環境総務課 総括課長補佐、産業労働部 労政雇用課 総括課長補佐、観光文化部 観光資源課長、農政部 担い手・農地対策課長

【オブザーバー】※50音順

大川 正勝 （株）JTB 甲府支店 支店長

北辻 巧多郎 （株）LIFULL 地方創生推進部 LivingAnywhereCommons グループ 企画・営業 WorkingAnywhere プラットホーム構想担当

小林 宏至 （株）日本旅行甲府支店 支店長

山口 春菜 （株）パソナ JOB HUB ソーシャルイノベーション部 ワーケーションプロデューサー

【事務局】

リニア未来創造・推進課長

- ◆会議次第： 1 開 会
- 2 議 事 （85分）
○本県が推進すべきワーケーションについて
- 3 閉 会

○議事

【意見交換① 山梨県ならではのワーケーション推進のメリットについて】

丸山座長

- ・ 資料P 1の上段右側に記載の関係人口や交流人口の増大というものは、まずわかりやすい、山梨県にとっての非常にありがたいメリットではないか。
- ・ 一方、企業に対しても、山梨県だからこそ、与えられるメリットとして、例えば、オフサイトミーティングの場を提供できれば、企業に対しては、優秀な人材の確保定着策、ウェルネスの促進、生産性の向上、チームアップに資するメリットを提供できるのではないか。
- ・ 個人にとっては、クリエイティブな環境を確保することによって、普段の業務から切り離して、新規事業のブラッシュアップや、新しいことを考えることにつながったり、もしくは地域の方々と接することによって学びの機会につながるのではないか。
- ・ 田中委員から、各地域がそれぞれ考えているメリットを聞いてみてはどうかとの提案をいただいたが、各市町村の方、いかがか。

望月委員

- ・ 資料P 1にも記載があるが、魅力ある地域資源に関連して、本栖湖西岸から、富士山を見ながら、アクティビティを楽しむことができる。神社仏閣については、身延山久遠寺付近には、宿坊があり、泊まりながら仕事ができる環境もある。下部温泉郷では、温泉で心身を癒やしながらか仕事ができる環境の提供が可能。地域の資源を生かしたワーケーションが提供できることが強みではないか。

丸山座長

- ・ 地域ならではの景観、観光資源、加えて、余暇の充実の観点から、温泉があるということ、特に個人に対するメリットに関連した意見だったと思うが、他にいかがか。

朝比奈委員

- ・ 本町には、四つの湖があり、富士山が見える自然豊かな環境であるのと同時に、首都圏からのアクセスも良好というところが優位性ではないかと思う。観光の視点からは、観光資源がたくさんあるというのは、山梨県の強みではないか。

山形委員 代理 土屋氏

- ・ 本市は、もも・ブドウ日本一、温泉の都、ワイナリーや観光農園がたくさんあるという強みがある。芦川地区には古民家等を活用した非常にリラックスできる場所も

ある。

- ・ 農業に関連して、新規就農のきっかけづくりとなる農業体験等も可能なので、そのような点も踏まえて取り組んでいきたい。

丸山座長

- ・ 地域ならではの取り組みが個人に刺さるのではないかという意見だったが、他にいかがか。

小林委員

- ・ 温泉が話題に挙がっているが、本市では、公共温泉が市内に10カ所あり、仕事の後の入浴として近くの温泉に入ることが可能。また、遠くから富士山が望めるということで、非常にきれいな形の富士山が見られる。仕事が休みのときには、八ヶ岳の周辺をトレッキング、散策することができる。また、食の文化については、水資源が豊富であり、それを活かした日本酒に代表される酒文化も楽しめる。

丸山座長

- ・ 食、酒等、非常においしいものが多くそろっているというところで、特に個人に対してのメリットではないかという意見だったが、オブザーバーの方々からも意見をいただきたい。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 当社が山梨県に拠点を設けた一つの理由は、アクセスのよさ。
- ・ 飛行機で行かなければいけないところや、時間的に1日かけなければいけないところよりも、東京の企業としては行きやすいという点は非常によい。
- ・ 個人的には、コストについて、日帰りで帰ってこられるというのは、ワーケーションを実施する上で重要な要素と考えており、東京都内であれば奥多摩エリア、あるいはやや遠方の長野県、さらには北関東の那須、塩原と比べてどうかという視点で、優位性を別個検討するのがよいのではないか。

丸山座長

- ・ アクセス性の良さについてコメントいただくとともに、山梨同様に都市圏に近い地域と比べた場合の優位性をより考えていくべきではないかとの意見であったが、他にいかがか。

オブザーバー 大川氏

- ・ 山梨県のワーケーションの一番のメリットはやはりアクセスではないか。

- ・ 都内から非常にアクセスしやすく、先日都内の芸能事務所が本社移転をするというニュースもあったが、東京の企業にとって、来やすい場所であるということを感じている。さらに、自然環境もあって、その二つがそろっている点で、非常にポテンシャルがある。
- ・ 地域ごとにいろんな魅力が違うので、地域ごとに特色を出して、それに合わせてターゲットングをしていくことがポイントではないか。
- ・ 以前、企業版ふるさと納税について意見を述べたが、自治体レベルでも具体的な動きが出てきている。例えば、富士北麓には、企業の保養所や学校のセミナーハウスがたくさんあり、それらの団体にふるさと納税をしてもらい、総務省の認可を得て、そこで集めた資金でワーケーション関連の整備をする。これによって、納税した企業や学校が、納税した先にワーケーションに来る理由付けになると考えている。
- ・ 山梨は非常によい土地であり、ターゲットとなりうる層にどうやって来てもらうか、どうやって選んでもらうかという点が最も大事と思うので、その仕掛けづくりに取り組んでいるところ。

丸山座長

- ・ 大企業に対する仕掛けづくりが重要なのではないかと意見であったが、他にいかがか。

オブザーバー 小林氏

- ・ 山梨のメリットとして、ロングステイに適した場所ではないかと感じている。
- ・ それぞれの市町村の間も 40 分から 1 時間圏内で移動ができて、様々なアクティビティも、できる。それぞれのエリアの特徴を生かして、農業、前回のワーキンググループで丸山座長から言及のあった麴、貴金属等に体験ができる場所も多いので、アクティビティの中に取り込んでいくのがよいのではないか。
- ・ また、コロナ対策という点では、すでに認証取得済みの施設も多いと思うが、知事が推進しているグリーンゾーン構想の中で、衛生環境が整っていることも、他県に比べた場合のメリットではないか。
- ・ 今後、多くの都道府県がワーケーションを推進していくと思うが、首都圏に近く、環境が整っていて、クリーンな環境があり、いろいろな体験ができる山梨県は、長くステイできる場所だと思うので、その点を強調するのがよいのではないか。

丸山座長

- ・ アクセス性、クリーンな環境、地域特有の貴重なアクティビティがそろっていて、ロングステイに適しているという意見であったが、他にいかがか。

オブザーバー 山口氏

- ・ 全国各地のワーケーションの企画や運営を担当する中で、一番大切にすべき唯一無二のものは、ストーリー。
- ・ 北辻オブザーバーからも意見があったが、近隣の奥多摩や北関東等もワーケーション誘致を行っている中で、自然、おいしい食、その土地の文化等は日本全国どこにでもある。
- ・ 他の地域と比べた時に、どのようなストーリーがあるのか。
- ・ 例えば農業体験の場合、なぜ農業体験をしてほしいのか、あるいは、クリーンエネルギーであれば、なぜ山梨県で取り組んでいるのかというストーリーをまず作ることが重要。
- ・ ストーリーができれば、そのストーリーに刺さる人つまりターゲットは誰かというターゲット選定にも役立つ。
- ・ 全国各地にそれぞれ魅力があるが、言葉にすると同じになってしまうことが多い。例えば、神社、山、自然、農業体験といっても、なかなか企業も、個人も選ぶ理由がないので、そこをどうストーリーを作って、ターゲティングしていくのかという点が前提として必要なのではないか。

丸山座長

- ・ 企業に対して、どのように理由づけ、仕掛けをしていくかといった点、個人、企業に対して、理由づけを行えるようなストーリーや共感性を生むようなストーリーをいかに言語化して届けていくかという点についての意見であった。

【意見交換② 山梨県の優位性について】

丸山座長

- ・ ここまでの議論の中で、山梨県の優位性として、立地条件、アクセス性のよさ、豊かな自然環境、アクティビティ、観光資源、潜在的な成長可能性等があり、その中でいかにストーリーを伝えていくかという意見が出ているが、ぜひ各自治体の方から、各地域の優位性について、ご意見いただきたい。また、これまでに議論を踏まえ、ぜひ、田中委員から、山梨県の優位性について、ご意見いただきたい。

田中委員

- ・ これまでの議論を踏まえ、多くの方が山梨県の優位性として上げているのが、立地条件。
- ・ 企業におけるワーケーションとして、休暇の中で働くという考え方と、リモートワークを活用して働く場所の自由度を広げるという考え方（Flex Place, Work From Anywhere）という考え方があると思うが、移動時間が短いということは、何かあっ

たときにすぐに東京のオフィスに戻れるという意味から、BCPの観点からも、強みになるのではないか。

- ・ 第1回目の緊急事態宣言の発令・解除の中で、オンライン・オフライン両方の働き方を経験することで、それぞれの良さがあることがわかり、両方が混在した働き方は今後も続くことが想定される中で、フレキシブルな働き方ができるという点は、最大の強みになるのではないか。
- ・ 各地域それぞれがどういう強みを持って、何を打ち出していくかという点と、山梨全体としてのワーケーションブランドとしてどのように発信していくかという点をミックスさせることができれば、より効果的にワーケーション需要を取り込むことができると思うので、この点について、本日議論していきたい。

佐藤委員

- ・ 田中委員から指摘のあった山梨としてのワーケーションブランドをしっかりと作っていくべきという点は、まさに同感。
- ・ 山梨県のメリットは、本日の資料P1にも記載されているが、それが企業サイドからメリットとして映っているのかどうかを検証する必要がある。
- ・ ワケーションブランドを作る上では、個人・企業のどちらを対象とするのか、地域性をどう考えるのか等について、県としてまとめた方がよいのではないか。各自治体の方に、各地域でどこをターゲットにしていくのかということについて、意見を伺いたい。

丸山座長

- ・ 個人や企業に対してメリットがしっかり届いているのかどうかを確認し、それを踏まえて各自治体がどこにフォーカスして、ターゲットを決めて進んでいくべきかをしっかり確認する必要があるのではないかという意見であったが、他にいかがか。

青柳委員代理 中澤氏

- ・ 対東京という観点から、立地のよさ、アクセスのよさ、県内各地において地域ごとにバラエティ豊かなワーケーション体験の提案ができる点が魅力かと思うが、それをどう具体的にストーリーづけをして結びつけていくのかという点が大きな課題と感じた。

丸山座長

- ・ いかにプランニングして、実際に使っていただく個人・企業のユーザーに届けていくかという点が課題ではないかという意見であったが、他にいかがか。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 現在、各都道府県等がワーケーションモニターツアー事業を展開しており、その中で交通費の補助を行っている。これについては、立地条件がよい山梨県は非常に優位。
- ・ 例えば、島嶼部の自治体が補助をする場合には、飛行機代、レンタカー代等多額の費用がかってしまうが、山梨県であれば、他の自治体とくらべてかなり低額になり、コスト面での優位性が非常に高い。
- ・ 半分私からの提案だが、来年度には、本格的にワーケーションを導入する企業の数もだんだんと増えることが予想される中で、ワーケーションビギナー企業が、まずはワーケーションするなら山梨県から始めようというようなコンセプトで始めるとよいのではないかと。
- ・ 企業側も、どこへワーケーションにいけばよいのか決めかねている状態であり、まずは立地条件のよい山梨県に来てもらい、山梨はワーケーションのお試しがしやすいということになれば、企業としても手を出しやすい。そのためには、交通費の補助等を整備する必要があるが、その流れができれば、純粹想起で、ワーケーションといえば山梨ということになるのではないかと。

丸山座長

- ・ コストが低いことを利用して、ワーケーションビギナーの企業も集めてしまうというブランディングの観点の意見であった。
- ・ 県全体のブランディングが必要ではないかといった意見が出ているので、ぜひ山梨県庁からご意見いただきたい。

観光資源課長

- ・ 当課においてワーケーション導入促進事業を進めているが、それを進めていく中で、本県の優位性ということを見ると、本日の資料P 1にも記載があるが、手つかずのバリエーション豊かな自然に恵まれていて、農地も非常に多い。また、観光資源、文化、特産品等もたくさんあり、それが点在している。
- ・ これらを踏まえ、ワーケーションを実施するにあたって、ワーケーション参加者が自らデザインし、作り上げることができるという楽しさがあるのではないかと。
- ・ 自分たちでつくり上げるということで、例えばワーケーションを企業研修に活用していただくことも考えられる。県にとっても、民間の方々にデザインしていただき、それを活用させていただくことで、県の発展にもつながっていくのではないかと。

丸山座長

- ・ 企業にとって自由な使い方ができるということで、研修、オフサイトミーティング、

社員の方に向けた余暇スペース等、パッケージにして、選択肢の中から選べるというような提案ができると面白いかもしれない。

- ・ 佐藤委員から、「ビギナー向けモニターツアーは賛成です。一度体験するとリピートする可能性が高まります」という意見をチャットでいただいたが、補足等あれば、ご意見いただきたい。

佐藤委員

- ・ 先日、事務局とワーケーション関連施設を見学した際にも、運営者から、交通費のコストについての意見が出た。
- ・ いくら議論していても、ワーケーションのマーケットはなかなか広がらないので、まずは企業に体験してもらうことが非常に有効ではないか。
- ・ ワケーションが導入され始めた初期の段階では、田中委員と都内の大手不動産事業者を訪問し、入居している企業に対してアプローチできないか相談していた。山梨県の地の利を活かして、BCP対策等を打ち出しながら、そういったところへモニターツアーを行えば、マーケットも広がるのではないか。

オブザーバー 山口氏

- ・ 都市部の企業向けにワーケーションを担当する中で、企業にとってのワーケーションの価値は、大きく二つに絞られてきていると思う。
- ・ 一つは、ワーケーションを通じて、社員の成長、人材育成が図れるかどうか。社員の生産性向上は、エビデンスが取りにくいのであまり打ち出していない。
- ・ もう一つは、SDGs 経営、サステナブル経営の観点。東京のオフィスは今後必要なくなるかもしれないという中で、これからの企業の持続可能性を考えたときに、地域に企業が進出しておくべきだという考えから、ワーケーション導入を検討するケースが非常に多い。地域との共同によって新しい事業を起こすとか、それによって社員が育っていくというような点を気にしているケースが多い。
- ・ いわゆるリフレッシュのためのワーケーションであれば、個人の判断で行ってくださいという企業が多い印象。
- ・ 北辻オブザーバーから意見のあったビギナー向けのワーケーションという考え方は、非常に良いと思う。ワーケーションを実施したいと思っている人は多いが、実際にはなかなか実行できていない中で、すぐに帰れる山梨の立地は非常に良い。
- ・ 行くことよりも、企業が家庭等でなにかあったときにすぐに帰れるというのは、ポイントになる。訴求の仕方、ブランディングの仕方としては、ややネガティブイメージかもしれないが、「すぐに帰れるワーケーション」というのは、全国的に見ても、今まであまりブランディングされてこなかったので、1つのポイントかもしれない。

丸山座長

- ・ すぐに帰れることを打ち出して、企業側が導入するハードルを下げていくのがよいのではないかという点、余暇の充実というよりは、人材育成、SDGs経営、サステナブル経営等を重視されてワーケーション導入を検討されているという点についての意見であった。

【意見交換③ 山梨県が提供できる価値について】

丸山座長

- ・ チャットで、北辻オブザーバーから「やさしいワーケーション」ということでコメントをいただいているが補足等あればご意見いただきたい。

オブザーバー 北辻氏

- ・ ワーケーションという言葉は最近出てきた単語で、長野県や和歌山県が強いという印象はあるが、まだ都道府県の中で、ワーケーション日本一ということを明文化しているところはない印象。
- ・ 先ほど、「やさしい」というキーワードを使ったが、この言葉の根拠を示すことが重要。立地、自然等が充実しているという点に加えて、我々が企業にヒアリングする中で、ネックとなっているのは、基本的にお金の面。移動費、宿泊費といったコスト面と、ワーケーションを企業体でまだ導入したことがないため、どんなルールで導入すればよいのかがわからないという部分のコスト。それに対してのサポートについても、弊社、パソナさん、JTBさん等の旅行会社さん等のプロがいるので、県の方で請負うような形ができれば「やさしい」ということになるのではないか。

丸山座長

- ・ 各企業や個人の間でも、ワーケーションという言葉が聞きなれるようになった今だからこそ、お試しでちょっと山梨に行ってみようかというときに、県全体の相談窓口から各地域につないで、コーディネーターの方がいるというような形は、導線としてわかりやすいと思う。
- ・ 各自治体からも、どのような価値を提供できるかについてご意見いただきたい。

小林委員

- ・ 我々は、職場に行って仕事をするということが大前提だが、例えばこういった企業・業種の方が、職場に行かなくても仕事ができるのかご教示願いたい。

丸山座長

- ・ 私自身は、東京大学に出向しているが、授業は100%リモート。データ分析を、大学

のパソコンソフトで行う必要があるので、週1回、大学に出勤しているのが現状。
テレワークのシステムが使用できれば、多くの場合、導入できるのではないかと。

オブザーバー 山口氏

- ・ マーケティングや、営業の中でも、対面の営業ではなく、インサイドセールスという形でオンラインやメールベースで営業している場合には、基本的にテレワーク可能。
- ・ バックオフィス系、具体的には、総務、人事、法務、税務等に加えて、契約の締結もクラウド上で可能になっており、これらはすべてテレワーク可能。
- ・ テレワークが難しい職種の方が、実は少ないのではないかと。例えば、医療福祉系は対面でないと難しい部分もあるが、オンライン診療できるようなシステムもできているので、それに特化している場合は、テレワーク可能。
- ・ その他、建築やインフラ系、具体的には、家を建てたり、水道管を調査したり、ガスを点検したりという業務の場合には、基本的には自分の目で見て、自分の手を動かして、仕事をしなければいけないので、テレワークは難しい。
- ・ 接客業については、オンライン化できるところとそうでないところが二極化している印象。基本的にはすべてオンライン化できるということが前提にあり、例えば年配の方を相手にする接客場の場合には、ターゲットのお客様のリテラシー等の関係で、テレワークは厳しいという状況。
- ・ 私自身、仕事としては営業、企画、プロジェクトマネージャー、バックオフィスすべて担当しているが、どれもテレワーク可能。後日、テレワークの実施状況に関する資料を事務局の担当者あて送付させていただく。

田中委員

- ・ 本日の資料P2に、価値創出型ワーケーションというコンセプトが記載されているが、どこの誰にどのような価値を感じてもらおうかということで、考え方が変わってくると思われる。
- ・ 今回の会議に参加している4自治体の中で、実際に二拠点居住をしている人が多いのは、おそらく北杜市。その中で、どういうものがプラスオンできると、すでに来ている人が更に価値を感じていただけるか、また、あるいは、逆にウィークポイントを改善することでさらに新しい価値をできる可能性もあると思うが、この点について、他の自治体の参考にもなると思うので、ご意見いただきたい。

小林委員

- ・ 都心からすぐに来られるということは好条件とは思いますが、課題になっているのが、例えばJRの電車を降りて、そこから宿泊施設等に行くための二次交通があまりい

い循環になっていない、あるいは循環ができていないという点。

【意見交換④ エリアごとの具体的取組について】

丸山座長

- ・ ここまでの議論をまとめると、企業単位・部署単位のサイトミーティング等の誘致を通じた将来的な企業誘致につなげるべく、「やさしいワーケーション」と題して山梨県全体でブランディングし、ストーリー性を出しながら、来年度をワーケーション推進元年と位置付けて進めていくのはどうかという意見が多かった印象である。これに加えて、ワーケーションの3種類のうち、1（個人単位のワーケーションの促進を通じた将来的な二拠点居住の実現）、3（新たな観光需要の創出や滞在期間の長期化等による観光産業の収益向上）といった観点の議論や、各地域でどのように役割分担を行って進めていくかという議論もあると思う。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 県全体で、たとえば「やさしいワーケーション」というような形でコンセプトを決めたとして、実際のターゲット（個人・企業・観光）については、各自治体レベルで設定する方がよいのではないかと。
- ・ このエリアはこうすべきということを県が決めるのは難しい印象があり、どちらかといえば、どういう人を呼びたいか、どういう人が自分の町に合うかということ意思決定して、それに対してどんな補助を県ができるのかという議論の方が、より、現場サイドの声が拾えるのではないかと。

丸山座長

- ・ 今までの取り組みや、今後の方針を踏まえ、各自治体からご意見いただきたい。

小林委員

- ・ 本市は、従来から観光に力を入れていて、さらに力を入れようとしているところだが、現在、コロナが蔓延している中で、観光的な人の動きができない。そこで、企業に、避難してくださいというような意味ではないが、北杜市を知っていただくきっかけづくりができればよいのではないかと考えた。

丸山座長

- ・ 山梨のクリーンな環境を生かして、従来進めていた観光に加えて、企業の誘致のフックにするのもよいのではないかとといった意見であったが、他にいかがか。

望月委員

- ・ コロナ禍で観光需要が落ち込んでいるが、本町としては、下部温泉郷を拠点としたワーケーションづくりをしていきたい。下部温泉郷の周辺には、本栖湖、身延山久遠寺等があるので、そこでアクティビティを体験したり、リフレッシュしたりということが考えられる。

山形委員代理 土屋氏

- ・ 本市でも、石和温泉郷の周辺には、ゴルフ場やスキー場、キャンプ場などの施設があるので、そこでリフレッシュしていただくことも考え取り組んでいきたい。

朝比奈委員

- ・ 本町も観光に力を入れているため、資料P3に記載のあるワーケーションの3類型の中では、特に3（新たな観光需要の創出や滞在期間の長期化等による観光産業の収益向上）を目指すところだが、1（個人単位のワーケーションの促進を通じた将来的な二拠点居住の実現）や2（企業単位・部署単位のオフサイトミーティング等の誘致を通じた将来的な企業誘致）についても、需要がありさえすれば、当町としても取り組んでいきたい。

オブザーバー 山口氏

- ・ 本日の議論の中で、各自治体の意見を聞いていると、「観光」というキーワードが共通しているように感じる。
- ・ ワーケーションの文脈は非常に幅広く、観光の代替としてのワーケーション、個人の移住定住につながるワーケーション、企業のサテライトオフィス設置や、弊社のような本社の移転等につながるワーケーション等がある。それによって、ワーケーションのプログラムの内容、企画の内容が変化していくのではないかと感じている。本日の各自治体の意見を聞く中で、「観光」というキーワードが共通しているので、山梨県としては観光を一つの目的にしたワーケーションが進めやすいのではないかと感じたが、ぜひ田中委員に山梨県としてのワーケーションについて、ご意見いただきたい。

田中委員

- ・ ワーケーションについては、いろいろな解釈がある中で、観光型のワーケーションというものもあるが、このワーキングチームでは特にワーケーションを二拠点居住にいかにつなげていくかということをしりあわせる必要がある。
- ・ 観光はここ数年で大きくスタイルを変えていて、そのきっかけの1つには民泊がある。一般の住宅に宿泊し、地域の人等と交流するスタイルがかなり増えてきて、そ

れが更に進んだのが、本日ご出席の北辻オブザーバーも展開されているコリビング型の滞在スタイル。住むことと観光することの境目がどんどんなくなってきている。

- ・ 観光の目的も、誰かに会いたいとか、コミュニティに入って、そこの中の人たちと一緒に過ごす時間を大切にしていきたいといういわゆる人消費型のスタイルが増えってきている。
- ・ このような流れの中で、観光型とワーケーション型の距離が縮まってきた印象。
- ・ 海外旅行にはほとんど行けず、国内も緊急事態宣言が出され、マイクロツーリズムの色合いがさらに強くなることが想定される中で、観光型と定義づけること自体に意味がないのではないか。
- ・ その土地に滞在することに価値を見いだすスタイルが広がる中で、観光の意味合い自体が、山梨県が目指す二拠点居住推進につながりやすいポジションに移ってきている。
- ・ このような流れの中で、観光型を目指す地域においても、コリビング型に近いスタイルを求めて、それぞれの目的を持って来訪するお客さまの数や滞在日数をどのようにして増やすかということを考える必要がある。
- ・ コミュニティという観点からは、例えば石和温泉の場合、終日温泉旅館の中で過ごしてもらうというよりは、施設の外に出て、滞在してもらう仕掛けづくりが重要。
- ・ さまざまなことがオンライン上で可能になる中で、逆に、その場所にわざわざ来てもらうことの誘致のハードルが上がる可能性がある。
- ・ こうした変化の中で、観光の捉え方をアップデートして、山梨がワーケーションを推進するための観光とは何かということを解釈して、それぞれのエリア特性を踏まえ、それぞれのエリアでどのように戦略的に取り組んでいくのかということを整理し、それを県全体でどうプランニングするかを考え直す良い機会ではないか。

オブザーバー 山口氏

- ・ 田中委員にご教示いただいたように、今まで想定していた観光資源を新たにアップデートする必要があると感じた。
- ・ 都市部の企業がワーケーションで訪れたり、個人が二拠点生活する場所として選んだりといった際の選択肢として上がるどうかは、アップデートされた観光資源がキーポイントとなるのではないか。
- ・ 各地域の特色、キーパーソン等について詳しく把握しているわけではないが、地域のストーリーが新しい観光資源につながるのではないかと感じた。

以上